

中学時代、飼い犬を助けてくれた獣医さんの姿を見て、生き物に接する仕事ってこんなにかっこいいんだと思い始めた麦さん。ちゃんと大学に行って学びたいと思い、進学に向けて猛勉強。高校に上がると、もともと海が好きだったことから、海洋生物の獣医になりたいと思い始める。さて大学を選ぼうと思ったときに同級生から出てきた「鹿児島って何もないよね」という言葉。それがずっと引っかかっていた麦さん。

「鹿児島には良いところがたくさんあるのに、県外に出ていくのが悔しくて。鹿児島の生き物を調べて、こんなにすごいんだってことを証明してやる！と心に決めました。」

そこから鹿児島大学の理学部へ進学。

ある日、大学の講義で「魚が自然界で何を食べているか知っているか？」と問われた。

そんなこと考えたこともなかった麦さんは恥ずかしくなった。答えは「ゴカイ」という生き物。ゴカイがいるから人間は魚を食べることができる。じゃあゴカイは何を食べるのか、それは人間が出している有機物。それを海で浄化してくれるのがゴカイという生き物。「こんな大切なこと、なんで義務教育で教えてくれないの？そう思いました。」学校では伝えきれない、もっとみんなに知ってほしい、そういう仕事ができる場所がないか調べてみたが見つからない。そこで麦さんが決めたこと。それは「くすの木自然館」に願書と履歴書を提出することだった。

1年目はごみ拾いからのスタート

研修期間3年間のうちに取り組んだことは、重富海岸の再生。自分の思い出の場所が荒れていることが悲しくて悔しい。二度とこんな思いを繰り返さないために、まずはごみ拾いから始めることに。現状とごみが少なくなるための対策を行政に伝える、同時に干潟の生き物たちの研究データを積み上げ、博物館に展示するための助成金を得るといったことに取り組んだ。自分で走り回って仕事をとり、事業をつくりあげる。ただお金を稼ぐのではなく、あくまで作りたい未来のために今この仕事をしないといけないんだというマインドセットも含めて学んでいった。

つくりたい社会や未来が共有できていること

くすの木自然館というチームとしての強みは、一緒にこういう社会をつくりたいという人たちが集まってきている、健全なかたちでチームができていることだという。約2年前に職員全員に向けて、そもそもどんな思いで作られた組織であるかを伝える機会をつくった。そうすることで一人ひとりの仕事への向き合い方が変わってきたという。「NPOの継承や次世代がないという問題はよく聞かれますが、若い人たちがやっていくことも大切だけど、若い人たちにこれまでの歴史を否定してほしくない。これまで作られてきたものを継承していくことと同時に、自分たちがつくりたい未来を考え、そこと社会をどうマッチングさせるかということも考えて仕事をしてもらいたいと考えています。」

最後に団体としての展望を伺った。ここ1~2年で力を入れているのは「共生・協働」という考え方。多くはボランティア、交通費程度で関わっているのが現状。NPOはただのボランティア団体ではなく、正当な対価をいただきながら参加していける社会になること。例えば、義務教育の中に環境教育が入り、そこをプロとしてサポートできる社会体制となっていくこと。また、世界ジオパークを目指したいと考えている。重富海岸は国立公園になるまでに約7年かかったが、この土地は世界にも認められるだけのものがあると自信をもって語るお二人。これだけの歴史を積み上げてきたくすの木自然館から学ぶことはまだまだあるように思う。

NPO法人くすの木自然館 団体概要

主な活動内容

環境教育や自然体験活動を通して、鹿児島を愛する人々を育て、豊かな郷土の風土（自然・文化・生活）を後世に良い状態で継承していくための環境保全・風土継承活動を行う。また、環境調査の生きたデータをもとに、環境教育を進める、調査・研究・教育・環境保全を行う専門機関である。



お問い合わせ

- 団体名：NPO法人くすの木自然館
- 代表理事：浜本 奈鼓/専務理事：浜本 麦
- Mail：office@kusunokishizenkan.com
- ホームページ：http://kusunokishizenkan.com/